

校長研修だより204

「差別する」の対義語は？

2025・6・18 重枝 一郎

福岡市では2019年6月に第2次人権教育推進計画が策定され、これまでの同和教育の成果をいかした人権教育の推進が確認された。

コロナ禍の時、オンラインで「全市人権教育研修」を受けることになった。その内容に新型コロナウイルスの「負のスパイラル」の話があった。この負のスパイラルの構図は人権問題の構図と同じであると。つまり、正しく知り、尊敬の意をもって行動するという共通認識が大切になると。

江戸時代の身分制度について、教科書の記述は変わっている。1996～「農・工・商の下にさらに低い身分がつくられた」、2005～「村人や町人とは別に身分上厳しくされてきた人々がいました」という風である。2005以降は村人・町人とは「別」にとか「他」という表記がされるようになり、ピラミッド型の身分制の誤りが指摘された。ちなみに新しい教科書には「百姓や町人とは区別され、差別されていた人々もいました」と記されている。

ここで重要なのは「差別の構造」についてである。

以前の教科書の表記は所有・支配等の「上下関係に基づく上下の差別」であり、今の教科書の表記は無視・忌避等の「排除の論理に基づく排除の差別」があることがわかる。

どちらにしても、否定的な感情のカテゴリー化をしていることになる。カテゴリー化は人との付き合いにおいて日常的に誰でもすることであるが、そのカテゴリーを肯定的に捉えるか、否定的に捉えるかが差別のわかれ道になると思う。

また、昨今新たな課題も生まれてきている。それは、インターネットによる差別書き込みである。以前より差別落書きや発言はあった。ところが今はインターネットに書き込むことで、それとは比べ物にならないほどの量である。

では、私たち教師は何を意識し、どう行動すればいいのか。

「差別する」の対義語は？

「平等」「公平」？

でも「平等する」「公平する」とは言わない。

「差別する」の対義語は、『〇〇した結果として、「平等」「公平」になる』ということである。この〇〇には、何が入るのか。

そこには「尊敬」や「感謝」が入る。

「差別する」の対義語は、人とお互い「尊敬する」ことであり、人と人のつながりに「感謝する」ことではないか。新しいことでも難しいことでもない。私たちは常日頃からそういう思考を常に持っておき、生徒に語ることが大切になる。

私たちの日常でも関連付けてみる。誰もあいさつをしない職員室、笑顔で応対しない教師、グチグチ言って周りが気だけ遣い信頼されない教師……。そういう場所は、息苦しく、楽しくない。

毎年、入学式で新生に「ミッションバリュー」について話す。これは、人権教育とつながっている。「エンジョイも、フェアも、スチューデントファーストも、チャレンジも、リスペクトの精神がなければ成り立たない」ということを必ず話すようにしている。また、先生方のクラス目標には必ず人権的視点が含まれているはずである。1年間のスパンで考えたときに肝になる「6月」に「4月の契約」をしっかりと振り返らせて、学習、生活、対人のルール・マナーの再契約をする。